

にいまるにいさん
鈴鹿市総合計画2023

2016(平成28)年度～

2021(令和3)年度実績値
分析結果

2022(令和4)年11月

鈴 鹿 市

目 次

1	市民アンケートの実施概要について	2
2	全体指標の実績値測定結果（市民アンケートの実施結果）について	3
	（1）性別分析	6
	（2）年代別分析	9
	（3）地域別分析	12
3	個別指標の実績値測定結果について	15
4	指標の実績値結果から分かること及びこれからの課題	22

本資料は次期総合計画の策定に当たり、その基礎資料とするため、鈴鹿市総合計画2023(以下、「総合計画2023」という。)の計画期間の7年目となる2022(令和4)年度に、基本構想の6年間の実績値の分析結果をまとめたものです。

●鈴鹿市総合計画2023について

2016(平成28)年4月にスタートしました総合計画2023は、2024(令和6)年3月末までの8年間の計画となります。

この間、基本構想に基づき、

前期基本(行政経営)計画【2016(平成28)年度～2019(令和元)年度】

後期基本(行政経営)計画【2020(令和2)年度～2023(令和5)年度】

の2期に分けて施策や単位施策、事務事業の見直しを行いながら、本市がめざす将来都市像の実現に向けて様々な取組を進めています。

● 将来都市像と達成度を測る成果指標の設定

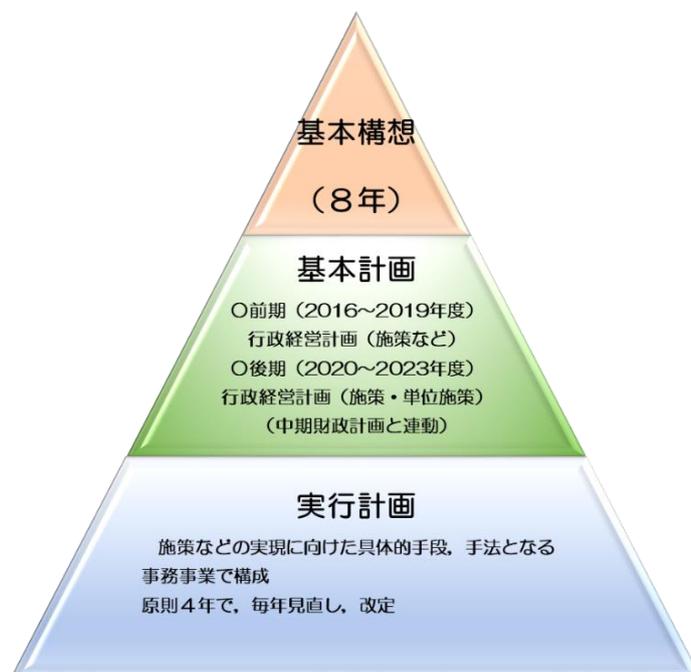
総合計画2023では、「みんなで創り 育み 成長し みんなに愛され選ばれるまち ずずか」を将来都市像として基本構想に設定し、その達成度を総括的に測る全体指標として、「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民の割合」を設定しています。

また、都市ビジョンとしての「めざすべき都市の状態」の個々の達成度を測る個別指標を設定しています。

● 指標の測定方法

総合計画2023は、「基本構想」、
「基本計画(行政経営計画)」及び
「実行計画」の3層構造で構成して
います。

構成の最上位に当たる基本構想
に設定した全体指標と個別指標は、
市民アンケート等によって毎年実績
値の測定を行っています。



● 基本構想の進捗状況

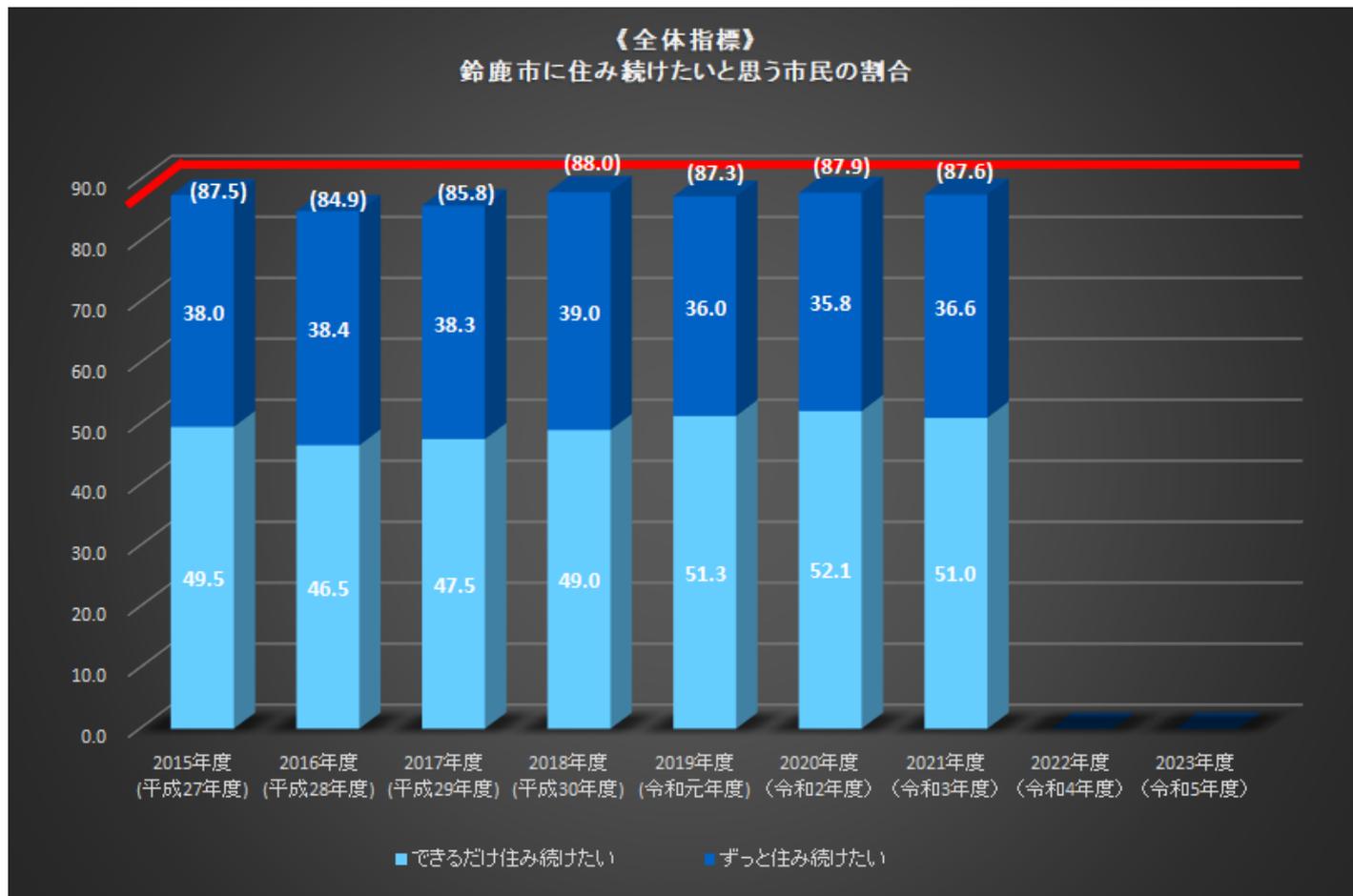
1 市民アンケートの実施概要について

1 対象者及び抽出方法	2015（平成27）年度～2021（令和3）年度	市民 4,000名 18歳以上の市民の中から，多段階無作為抽出（行政区，性別，年齢構成比を基に抽出）
2 調査方法	2015（平成27）年度～2021（令和3）年度	郵送調査
3 実施スケジュール	2015（平成27）年度	回答期間 4月27日（月）～5月18日（月）
	2016（平成28）年度	各年度10月実施
	2017（平成29）年度	
	2018（平成30）年度	
	2019（令和元）年度	
	2020（令和2）年度	
	2021（令和3）年度	
4 回収結果	2015（平成27）年度	(1) 有効回答数（率）2,335人（58.4%） (2) 無効調査数（率）1,665人（41.6%）
	2016（平成28）年度	(1) 有効回答数（率）1,867人（46.7%） (2) 無効調査数（率）2,133人（53.3%）
	2017（平成29）年度	(1) 有効回答数（率）1,853人（46.3%） (2) 無効調査数（率）2,147人（53.7%）
	2018（平成30）年度	(1) 有効回答数（率）1,877人（46.9%） (2) 無効調査数（率）2,123人（53.1%）
	2019（令和元）年度	(1) 有効回答数（率）1,830人（45.8%） (2) 無効調査数（率）2,170人（54.2%）
	2020（令和2）年度	(1) 有効回答数（率）1,917人（47.9%） (2) 無効調査数（率）2,083人（52.1%）
	2021（令和3）年度	(1) 有効回答数（率）1,855人（46.4%） (2) 無効調査数（率）2,145人（53.6%）

※2015（平成27）年度については，新たな総合計画（総合計画2023）の策定に当たり，現状値の把握及び計画期間満了時点の目標値の設定が必要なことから，アンケート調査を実施し，次年度以降については，取組の進捗を図るため，アンケート調査を実施しています。

2 全体指標の実績値測定結果（市民アンケートの実施結果）について

将来都市像の達成度を測る全体指標	鈴鹿市に住み続けたいと思う市民の割合(%)	現状値	実績値									目標値
		2015 (平成27)年度	2016 (平成28)年度	2017 (平成29)年度	2018 (平成30)年度	2019 (令和元)年度	2020 (令和2)年度	2021 (令和3)年度	2022 (令和4)年度	2023 (令和5)年度	2023 (令和5)年度	
		87.5	84.9	85.8	88.0	87.3	87.9	87.6			90	



※1 市民アンケートで「ずっと住み続けたい」及び「できるだけ住み続けたい」を選択した割合を「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民」の割合としています。

※2 現状値及び目標値は、総合計画2023の策定に当たり2015（平成27）年度に測定した※1の現状値及び計画期間満了時点の目標値です。

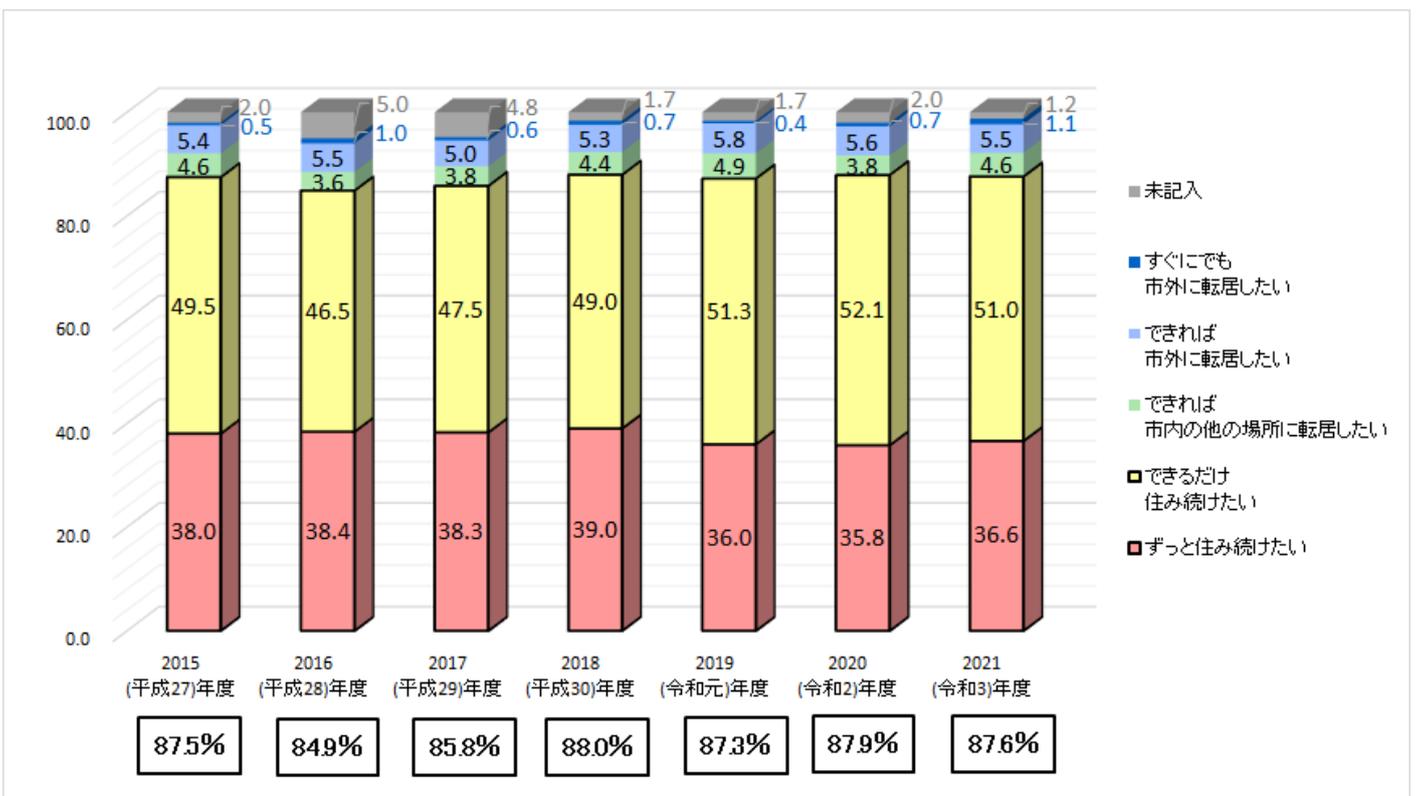
総合計画2023の策定時となる2015（平成27）年度に測定した現状値87.5%に対し、最新の実績値となる2021（令和3）年度は87.6%となり、0.1%の増加となりました。

各年度の実績値も概ね現状値の87.5%前後で推移しており、大きな増減は見られません。

問：鈴鹿市にこれからも住み続けたいと思いますか。

	ずっと住み続けたい		できるだけ住み続けたい		できれば市内の他の場所に転居したい		できれば市外に転居したい		すぐにも市外に転居したい		未記入		計	
	人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)
2015 (平成27)年度	888	38.0	1,155	49.5	107	4.6	126	5.4	12	0.5	47	2.0	2,335	100.0
2016 (平成28)年度	717	38.4	868	46.5	67	3.6	103	5.5	18	1.0	94	5.0	1,867	100.0
2017 (平成29)年度	709	38.3	881	47.5	70	3.8	92	5.0	12	0.6	89	4.8	1,853	100.0
2018 (平成30)年度	732	39.0	919	49.0	82	4.4	99	5.3	14	0.7	31	1.7	1,877	100.0
2019 (令和元)年度	658	36.0	938	51.3	89	4.9	106	5.8	8	0.4	31	1.7	1,830	100.0
2020 (令和2)年度	686	35.8	999	52.1	72	3.8	108	5.6	13	0.7	39	2.0	1,917	100.0
2021 (令和3)年度	679	36.6	946	51.0	85	4.6	102	5.5	20	1.1	23	1.2	1,855	100.0

※ 2015（平成27）年度現状値と比較し、現状値より構成比が増加している項目



※ 「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民」の割合

回答項目における構成比では、2019（令和元）年度を境に、【ずっと住み続けたいと思う人】の割合は、現状値より1.4%～2.2%減少し、【できるだけ住み続けたいと思う人】の割合は、現状値より1.5%～2.6%増加しており、「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民」の割合の内訳が逆転しています。

そのほかの回答項目の構成比について、最新の実績値となる2021（令和3）年度は、【できれば市内の他の場所に転居したいと思う人】の割合は、現状値からの変化はなく、【できれば市外に転居したいと思う人】の割合は0.1%の増加、【すぐにでも市外に転居したいと思う人】の割合は0.6%の増加となっています。

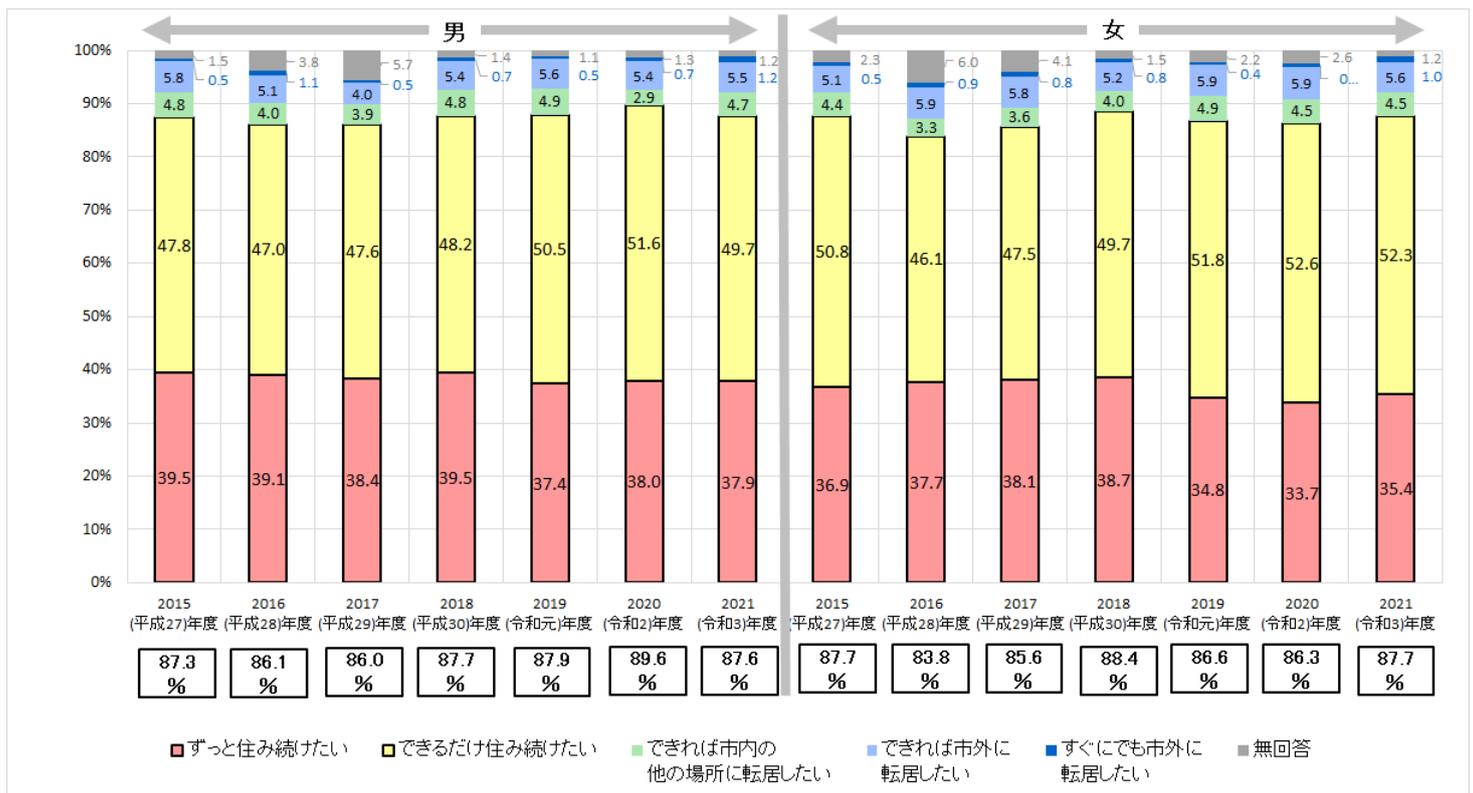
各年度における構成比でも大きな増減は見られない結果となっています。

この結果の要因を探るため、「性別」、「年代別」、「地域別」の各視点で分析を行っています。

(1) 性別分析

		ずっと住み続けたい		できるだけ住み続けたい		できれば市内の 他の場所に転居したい		できれば市外に 転居したい		すぐにも市外に 転居したい		無回答		計	
		人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
男	2015 (平成27)年度	410	39.5	496	47.8	50	4.8	60	5.8	5	0.5	16	1.5	1,037	100.0
	2016 (平成28)年度	333	39.1	400	47.0	34	4.0	43	5.1	9	1.1	32	3.8	851	100.0
	2017 (平成29)年度	319	38.4	395	47.6	32	3.9	33	4.0	4	0.5	47	5.7	830	100.0
	2018 (平成30)年度	343	39.5	419	48.2	42	4.8	47	5.4	6	0.7	12	1.4	869	100.0
	2019 (令和元)年度	303	37.4	409	50.5	40	4.9	45	5.6	4	0.5	9	1.1	810	100.0
	2020 (令和2)年度	323	38.0	439	51.6	25	2.9	46	5.4	6	0.7	11	1.3	850	100.0
	2021 (令和3)年度	325	37.9	426	49.7	40	4.7	47	5.5	10	1.2	10	1.2	858	100.0
女	2015 (平成27)年度	477	36.9	657	50.8	57	4.4	66	5.1	7	0.5	30	2.3	1,294	100.0
	2016 (平成28)年度	382	37.7	467	46.1	33	3.3	60	5.9	9	0.9	61	6.0	1,012	100.0
	2017 (平成29)年度	389	38.1	485	47.5	37	3.6	59	5.8	8	0.8	42	4.1	1,020	100.0
	2018 (平成30)年度	384	38.7	494	49.7	40	4.0	52	5.2	8	0.8	15	1.5	993	100.0
	2019 (令和元)年度	349	34.8	519	51.8	49	4.9	59	5.9	4	0.4	22	2.2	1,002	100.0
	2020 (令和2)年度	354	33.7	552	52.6	47	4.5	62	5.9	7	0.7	27	2.6	1,049	100.0
	2021 (令和3)年度	350	35.4	518	52.3	45	4.5	55	5.6	10	1.0	12	1.2	990	100.0
その他	2021 (令和3)年度	0		0		0		0		0		0		0	
回答しない	2021 (令和3)年度	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0
無回答	2015 (平成27)年度	1	25.0	2	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	4	100.0
	2016 (平成28)年度	2	50.0	1	25.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	25.0	4	100.0
	2017 (平成29)年度	1	33.3	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
	2018 (平成30)年度	5	33.3	6	40.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	26.7	15	100.0
	2019 (令和元)年度	6	33.3	10	55.6	0	0.0	2	11.1	0	0.0	0	0.0	18	100.0
	2020 (令和2)年度	9	50.0	8	44.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.6	18	100.0
	2021 (令和3)年度	4	66.7	1	16.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	16.7	6	100.0
総計	2015 (平成27)年度	888	38.0	1,155	49.5	107	4.6	126	5.4	12	0.5	47	2.0	2,335	100.0
	2016 (平成28)年度	717	38.4	868	46.5	67	3.6	103	5.5	18	1.0	94	5.0	1,867	100.0
	2017 (平成29)年度	709	38.3	881	47.5	70	3.8	92	5.0	12	0.6	89	4.8	1,853	100.0
	2018 (平成30)年度	732	39.0	919	49.0	82	4.4	99	5.3	14	0.7	31	1.7	1,877	100.0
	2019 (令和元)年度	658	36.0	938	51.3	89	4.9	106	5.8	8	0.4	31	1.7	1,830	100.0
	2020 (令和2)年度	686	35.8	999	52.1	72	3.8	108	5.6	13	0.7	39	2.0	1,917	100.0
	2021 (令和3)年度	679	36.6	946	51.0	85	4.6	102	5.5	20	1.1	23	1.2	1,855	100.0

※ 2015（平成27）年度現状値と比較し、現状値より構成比が増加している項目



※ 「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民」の割合

《性別分析から分かること》

- 「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民」の割合は、総合計画2023の策定時となる2015(平成27)年度に測定した現状値と、最新の実績値となる2021(令和3)年度を比較すると、男性は現状値87.3%が最新の実績値87.6%となり、0.3%の増加、女性は現状値87.7%から変化がなく、男女ともに目標とする90%には達していません。
- 2019(令和元)年度を境に【ずっと住み続けたいと思う人】の割合は、現状値より男性が1.5%~2.1%減少し、女性も1.5%~3.2%減少しています。また、【できるだけ住み続けたいと思う人】の割合は、現状値より男性が1.9%~3.8%増加し、女性も1.0%~1.8%増加しており、男女ともに同じ傾向となっています。
- そのほかの回答項目の構成比について、最新の実績値となる2021(令和3)年度は、【できれば市内の他の場所に転居したいと思う人】の割合は、男性は0.1%の減少、女性は0.1%の増加、【できれば市外に転居したいと思う人】の割合は、男性は0.3%の減少、女性は0.5%の増加、【すぐにも市外に転居したいと思う人】の割合は、男性が0.7%の増加、女性は

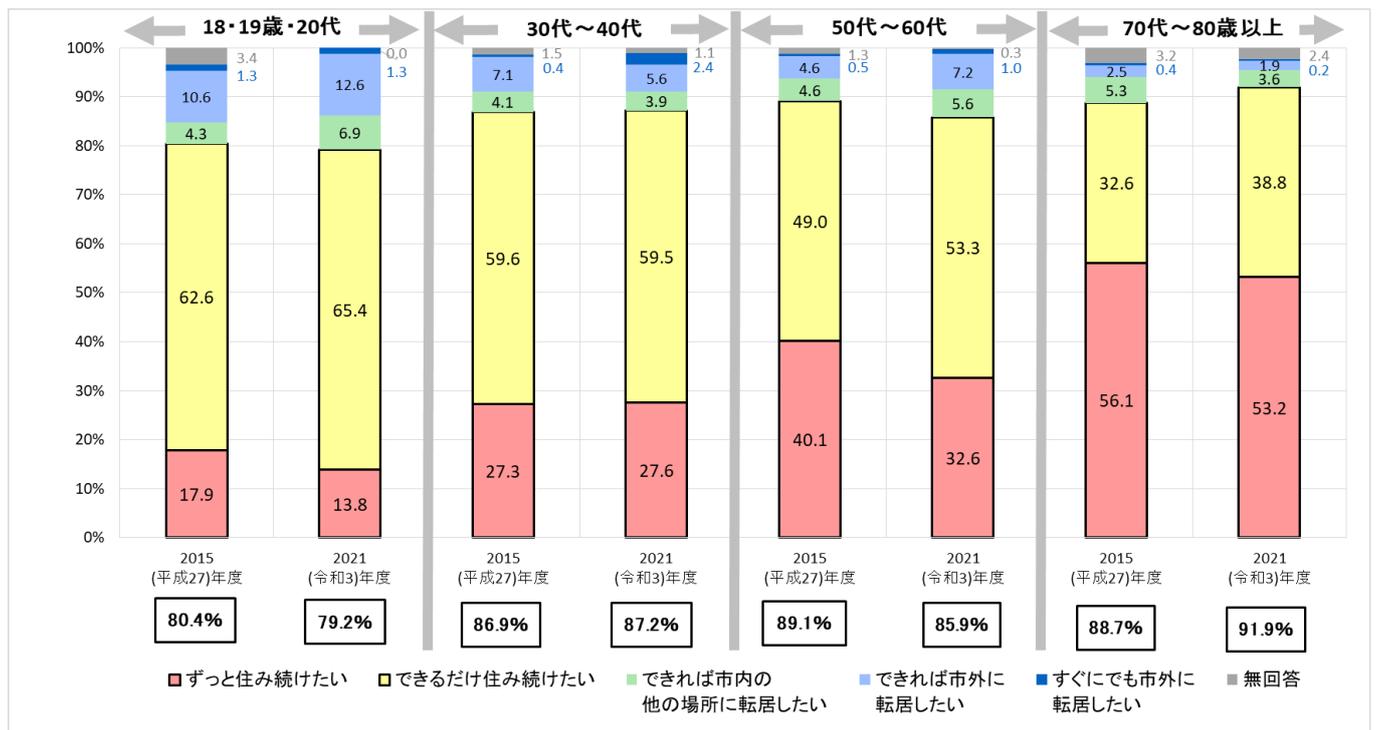
0.5%の増加となっています。男女で若干の違いはあるものの1%以内の差であることから男女とも同じ傾向となっています。

- このことから「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民」の割合について、男女間の格差はほとんどない結果となっています。

(2) 年代別分析

		ずっと住み続けたい		できるだけ住み続けたい		できれば市内の他の場所に転居したい		できれば市外に転居したい		すぐにも市外に転居したい		無回答		計	
		人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
18・19歳・20代	2015 (平成27)年度	42	17.9	147	62.6	10	4.3	25	10.6	3	1.3	8	3.4	235	100.0
	2016 (平成28)年度	27	16.4	108	65.5	7	4.2	15	9.1	4	2.4	4	2.4	165	100.0
	2017 (平成29)年度	19	14.8	83	64.8	3	2.3	16	12.5	2	1.6	5	3.9	128	100.0
	2018 (平成30)年度	37	21.1	104	59.4	11	6.3	15	8.6	4	2.3	4	2.3	175	100.0
	2019 (令和元)年度	23	16.9	88	64.7	6	4.4	16	11.8	1	0.7	2	1.5	136	100.0
	2020 (令和2)年度	32	17.8	111	61.7	10	5.6	22	12.2	2	1.1	3	1.7	180	100.0
	2021 (令和3)年度	22	13.8	104	65.4	11	6.9	20	12.6	2	1.3	0	0.0	159	100.0
30代～40代	2015 (平成27)年度	185	27.3	404	59.6	28	4.1	48	7.1	3	0.4	10	1.5	678	100.0
	2016 (平成28)年度	148	29.2	280	55.3	14	2.8	41	8.1	11	2.2	12	2.4	506	100.0
	2017 (平成29)年度	151	29.4	295	57.4	15	2.9	30	5.8	5	1.0	18	3.5	514	100.0
	2018 (平成30)年度	132	27.4	286	59.3	21	4.4	36	7.5	4	0.8	3	0.6	482	100.0
	2019 (令和元)年度	132	27.8	286	60.3	21	4.4	29	6.1	2	0.4	4	0.8	474	100.0
	2020 (令和2)年度	134	28.2	285	59.9	11	2.3	39	8.2	4	0.8	3	0.6	476	100.0
	2021 (令和3)年度	129	27.6	278	59.5	18	3.9	26	5.6	11	2.4	5	1.1	467	100.0
50代～60代	2015 (平成27)年度	342	40.1	418	49.0	39	4.6	39	4.6	4	0.5	11	1.3	853	100.0
	2016 (平成28)年度	269	38.8	319	46.0	31	4.5	35	5.1	1	0.1	38	5.5	693	100.0
	2017 (平成29)年度	261	38.4	315	46.4	32	4.7	33	4.9	4	0.6	34	5.0	679	100.0
	2018 (平成30)年度	247	36.5	351	51.9	33	4.9	30	4.4	3	0.4	12	1.8	676	100.0
	2019 (令和元)年度	201	31.6	341	53.5	35	5.5	48	7.5	3	0.5	9	1.4	637	100.0
	2020 (令和2)年度	228	35.7	346	54.1	23	3.6	33	5.2	4	0.6	5	0.8	639	100.0
	2021 (令和3)年度	198	32.6	324	53.3	34	5.6	44	7.2	6	1.0	2	0.3	608	100.0
70代～80歳以上	2015 (平成27)年度	318	56.1	185	32.6	30	5.3	14	2.5	2	0.4	18	3.2	567	100.0
	2016 (平成28)年度	272	54.3	160	31.9	15	3.0	12	2.4	2	0.4	40	8.0	501	100.0
	2017 (平成29)年度	278	52.4	188	35.4	19	3.6	13	2.4	1	0.2	32	6.0	531	100.0
	2018 (平成30)年度	315	58.4	178	33.0	17	3.2	18	3.3	3	0.6	8	1.5	539	100.0
	2019 (令和元)年度	302	51.9	222	38.1	27	4.6	13	2.2	2	0.3	16	2.7	582	100.0
	2020 (令和2)年度	291	47.0	255	41.2	28	4.5	14	2.3	3	0.5	28	4.5	619	100.0
	2021 (令和3)年度	329	53.2	240	38.8	22	3.6	12	1.9	1	0.2	15	2.4	619	100.0
無回答	2015 (平成27)年度	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
	2016 (平成28)年度	1	50.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0
	2017 (平成29)年度	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0
	2018 (平成30)年度	1	20.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	80.0	5	100.0
	2019 (令和元)年度	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0
	2020 (令和2)年度	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
	2021 (令和3)年度	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	2	100.0
総計	2015 (平成27)年度	888	38.0	1,155	49.5	107	4.6	126	5.4	12	0.5	47	2.0	2,335	100.0
	2016 (平成28)年度	717	38.4	868	46.5	67	3.6	103	5.5	18	1.0	94	5.0	1,867	100.0
	2017 (平成29)年度	709	38.3	881	47.5	70	3.8	92	5.0	12	0.6	89	4.8	1,853	100.0
	2018 (平成30)年度	732	39.0	919	49.0	82	4.4	99	5.3	14	0.7	31	1.7	1,877	100.0
	2019 (令和元)年度	658	36.0	938	51.3	89	4.9	106	5.8	8	0.4	31	1.7	1,830	100.0
	2020 (令和2)年度	686	35.8	999	52.1	72	3.8	108	5.6	13	0.7	39	2.0	1,917	100.0
	2021 (令和3)年度	679	36.6	946	51.0	85	4.6	102	5.5	20	1.1	23	1.2	1,855	100.0

※ 2015（平成27）年度現状値と比較し、現状値より構成比が増加している項目



※ 「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民」の割合

《年代別分析から分かること》

- 18・19 歳・20 代の傾向は、【ずっと住み続けたいと思う人】の割合は 2018(平成 30)年度を除き、現状値より減少(0.1%～4.1%)していますが、【できるだけ住み続けたいと思う人】の割合は、2018(平成 30)年度と 2020(令和 2)年度を除き、現状値から増加(2.1%～2.9%)しています。また、【できれば市内の他の場所に転居したい人】の割合は、2018(平成 30)年度以降、増加(0.1%～2.6%)しており、【できれば市外に転居したい人】の割合も、2019(令和元)年度以降、増加(1.2%～2%)しています。全体として、大きな動きはありませんが、できれば市外に転居したいと思う人の割合が、増加している傾向にあります。
- 30 代～40 代の傾向は、【ずっと住み続けたいと思う人】の割合は 2016(平成 28)年度以降、現状値より増加(0.1%～2.1%)しており、2019(令和元)年度と 2020(令和 2)年度は、【できるだけ住み続けたいと思う人】の割合も増加しています。また、【すぐにも市外に転居したいと思う人】の割合は 2019(令和元)年度を除き、現状値から増加傾向(0.4%～2%)にあります。全体として、大きな動きはありませんが、住み続けたいと思う人の割合が、やや増加している傾向にあります。
- 50 代～60 代の傾向は、【ずっと住み続けたいと思う人】の割合は、2016(平成 28)年度以降、現状値から減少(1.3%～8.5%)していますが、【できるだけ住み続けたいと思う人】の割合は、2018(平成 30)年度以降は現状値から増加(2.9%～5.1%)

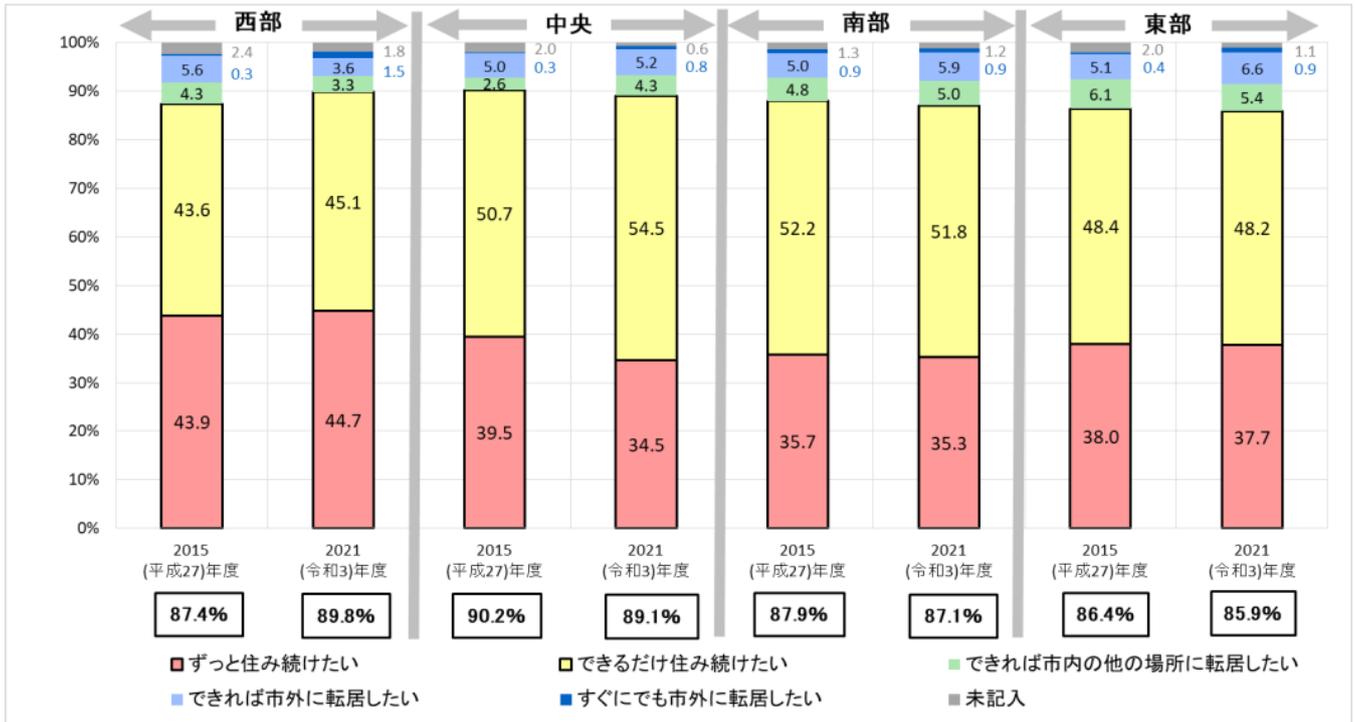
しています。また、転居したいと思う人は、【できれば市外に転居したいと思う人】の割合が2018(平成30)年度を除き、現状値から増加(0.3%~2.9%)しています。全体として、【ずっと住みたいと思う人】から、【できるだけ住みたいと思う人】へ移行する傾向にあることや、【できれば市外に転居したいと思う人】が若干増加している傾向にあります。

- 70代~80歳以上の傾向は、【ずっと住みたいと思う人】の割合は、2018(平成30)年度を除き、現状値より減少(1.8%~9.1%)しており、【できるだけ住みたいと思う人】の割合が、2017(平成29)年度以降、現状値より増加(0.4%~8.6%)しています。全体として、転居したいと思う人の割合にあまり変化はありませんが、【ずっと住みたいと思う人】から、【できるだけ住みたいと思う人】へ移行する傾向にあります。
- 年代別の割合で、目標値の90%を超えたのは、70代~80歳以上で、2018(平成30)年度、2019(令和元)年度、2021(令和3)年度の3年になります。
- 「鈴鹿市に住みたいと思う市民」の内訳において、全体の傾向としては、年代が上がるにつれ、【ずっと住みたいと思う人】の割合が増加しています。また、18・19歳・20代と50代~60代では、市外に転居したいと思う人の割合が、増加している傾向にあり、この割合が最も高い18・19歳・20代では、2021(令和3)年度は13.9%を占めています。

(3) 地域別分析

		ずっと住み続けたい		できるだけ住み続けたい		できれば市内の他の場所に転居したい		できれば市外に転居したい		すぐにも市外に転居したい		無回答		計	
		人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
西部	2015 (平成27)年度	164	43.9	163	43.6	16	4.3	21	5.6	1	0.3	9	2.4	374	100.0
	2016 (平成28)年度	126	43.9	115	40.1	11	3.8	17	5.9	3	1.0	15	5.2	287	100.0
	2017 (平成29)年度	128	41.6	123	39.9	20	6.5	16	5.2	4	1.3	17	5.5	308	100.0
	2018 (平成30)年度	133	45.4	124	42.3	11	3.8	19	6.5	3	1.0	3	1.0	293	100.0
	2019 (令和元)年度	111	39.4	138	48.9	15	5.3	11	3.9	0	0.0	7	2.5	282	100.0
	2020 (令和2)年度	111	36.0	147	47.7	14	4.5	27	8.8	3	1.0	6	1.9	308	100.0
	2021 (令和3)年度	123	44.7	124	45.1	9	3.3	10	3.6	4	1.5	5	1.8	275	100.0
	中央	2015 (平成27)年度	278	39.5	357	50.7	18	2.6	35	5.0	2	0.3	14	2.0	704
2016 (平成28)年度		230	38.2	288	47.8	12	2.0	33	5.5	5	0.8	34	5.6	602	100.0
2017 (平成29)年度		233	39.3	284	47.9	15	2.5	28	4.7	3	0.5	30	5.1	593	100.0
2018 (平成30)年度		239	39.6	302	50.1	15	2.5	38	6.3	3	0.5	6	1.0	603	100.0
2019 (令和元)年度		223	38.4	294	50.7	18	3.1	33	5.7	1	0.2	11	1.9	580	100.0
2020 (令和2)年度		215	37.1	318	54.8	9	1.6	22	3.8	5	0.9	11	1.9	580	100.0
2021 (令和3)年度		218	34.5	344	54.5	27	4.3	33	5.2	5	0.8	4	0.6	631	100.0
南部		2015 (平成27)年度	163	35.7	238	52.2	22	4.8	23	5.0	4	0.9	6	1.3	456
	2016 (平成28)年度	140	37.7	177	47.7	20	5.4	16	4.3	5	1.3	13	3.5	371	100.0
	2017 (平成29)年度	124	35.8	174	50.3	10	2.9	18	5.2	1	0.3	19	5.5	346	100.0
	2018 (平成30)年度	150	40.5	170	45.9	25	6.8	13	3.5	3	0.8	9	2.4	370	100.0
	2019 (令和元)年度	116	31.4	203	55.0	18	4.9	26	7.0	1	0.3	5	1.4	369	100.0
	2020 (令和2)年度	134	35.7	198	52.8	17	4.5	16	4.3	4	1.1	6	1.6	375	100.0
	2021 (令和3)年度	120	35.3	176	51.8	17	5.0	20	5.9	3	0.9	4	1.2	340	100.0
	東部	2015 (平成27)年度	263	38.0	335	48.4	42	6.1	35	5.1	3	0.4	14	2.0	692
2016 (平成28)年度		211	39.3	247	46.0	18	3.4	31	5.8	3	0.6	27	5.0	537	100.0
2017 (平成29)年度		208	39.0	256	48.0	21	3.9	25	4.7	1	0.2	22	4.1	533	100.0
2018 (平成30)年度		199	36.9	283	52.4	24	4.4	21	3.9	5	0.9	8	1.5	540	100.0
2019 (令和元)年度		191	37.0	252	48.8	32	6.2	28	5.4	6	1.2	7	1.4	516	100.0
2020 (令和2)年度		205	36.5	289	51.5	28	5.0	27	4.8	0	0.0	12	2.1	561	100.0
2021 (令和3)年度		201	37.7	257	48.2	29	5.4	35	6.6	5	0.9	6	1.1	533	100.0
無回答		2015 (平成27)年度	20	18.3	62	56.9	9	8.3	12	11.0	2	1.8	4	3.7	109
	2016 (平成28)年度	10	14.3	41	58.6	6	8.6	6	8.6	2	2.9	5	7.1	70	100.0
	2017 (平成29)年度	16	21.9	44	60.3	4	5.5	5	6.8	3	4.1	1	1.4	73	100.0
	2018 (平成30)年度	11	15.5	40	56.3	7	9.9	8	11.3	0	0.0	5	7.0	71	100.0
	2019 (令和元)年度	17	20.5	51	61.4	6	7.2	8	9.6	0	0.0	1	1.2	83	100.0
	2020 (令和2)年度	21	22.6	47	50.5	4	4.3	16	17.2	1	1.1	4	4.3	93	100.0
	2021 (令和3)年度	17	22.4	45	59.2	3	3.9	4	5.3	3	3.9	4	5.3	76	100.0
	総計	2015 (平成27)年度	888	38.0	1,155	49.5	107	4.6	126	5.4	12	0.5	47	2.0	2,335
2016 (平成28)年度		717	38.4	868	46.5	67	3.6	103	5.5	18	1.0	94	5.0	1,867	100.0
2017 (平成29)年度		709	38.3	881	47.5	70	3.8	92	5.0	12	0.6	89	4.8	1,853	100.0
2018 (平成30)年度		732	39.0	919	49.0	82	4.4	99	5.3	14	0.7	31	1.7	1,877	100.0
2019 (令和元)年度		658	36.0	938	51.3	89	4.9	106	5.8	8	0.4	31	1.7	1,830	100.0
2020 (令和2)年度		686	35.8	999	52.1	72	3.8	108	5.6	13	0.7	39	2.0	1,917	100.0
2021 (令和3)年度		679	36.6	946	51.0	85	4.6	102	5.5	20	1.1	23	1.2	1,855	100.0

※ 2015（平成27）年度現状値と比較し、現状値より構成比が増加している項目



※ 「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民」の割合



《地域別分析から分かること》

- 「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民」の割合は、最新の実績値となる 2021(令和 3)年度で、目標値の 90%を超えた地域はなく、西部地域は 89.8%、中央地域は 89.1%、南部地域は 87.1%、東部地域は 85.9%となり、若干の地域差があります。
- 西部地域は、現状値から最新の実績値において、各割合の構成については変化がなく、【ずっと住み続けたいと思う人】の割合と、【できるだけ住み続けたいと思う人】の割合は同じで、それぞれ 40%程度となっています。
- 中央地域及び南部地域も、現状値から最新の実績値において、各割合の構成について変化はありませんが、【できるだけ住み続けたいと思う人】の割合が半数を占め、次いで【ずっと住み続けたいと思う人】の割合が 30%から 40%程度となります。
- 東部地域は、現状値から最新の実績値において、各割合の構成について大きな変化はありませんが、【できるだけ住み続けたいと思う人】の割合は 40%強となり、次いで【ずっと住み続けたいと思う人】の割合は 30%強となっています。

3 個別指標の実績値測定結果について

総合計画2023では、将来都市像や将来都市像を支えるまちづくりの柱などの実現に向けて、基本構想の期間内に達成をめざす目標として、「めざすべき都市の状態（＝都市ビジョン）」を定めています。

「めざすべき都市の状態」は、まちづくりの基本的な方向性を示す「将来都市像を支えるまちづくりの柱」と「自治体経営の柱」の趣旨や市民の生活実感を踏まえて設定したもので、基本構想の達成度を測り、進行管理をしていくための具体的な取組目標となるものです。

将来都市像	将来都市像を支えるまちづくりの柱	めざすべき都市の状態	
みんな で 創 り み ん な に 成 長 さ し 選 ば れ る ま ち す ず か	大切な命と暮らしを守るまち すずか	1	市民と行政が連携し、不測の事態に備えて対応していること
		2	災害に対する不安がなく、安心して暮らしていること
		3	交通安全に対する意識が高く、交通事故がないこと
		4	地域で見守り合い、事件や犯罪がなく治安が良いこと
	子どもの未来を創り 豊かな文化を育むまち すずか	5	みんなが支え合い、安心して子育てしていること
		6	家庭、地域、学校が連携して、全ての子どもが楽しく学べる教育環境になっていること
		7	人と文化を育み、心豊かに過ごしていること
		8	スポーツを観て、参加して、楽しんでいること
	みんなが輝き 健康で笑顔が あふれるまち すずか	9	地域で高齢者がいきいきと元気に暮らしていること
		10	地域で障がい者が夢や生きがいを持って暮らしていること
		11	誰もが安心して医療を受けていること
		12	市民が心身ともに健康で自立して暮らしていること
	自然と共生し 快適な生活環境を つくるまち すずか	13	資源を有効に活用していること
		14	地域の豊かな自然環境を維持し、保全していること
		15	身近な生活環境の維持、向上を図っていること
		16	地域内外への移動がしやすい交通環境になっていること
	活力ある産業が育ち にぎわいと交流が 生まれるまち すずか	17	都市基盤がバランス良く整い、快適に暮らしていること
		18	ものづくり産業が元気で、活気にあふれていること
		19	自然の恵みを活用した産業の地産地消が進み、活気にあふれていること
		20	生活に関わる商いが元気で、まちがにぎわっていること
		21	地域の中で雇用の場が確保され、いきいきと働いていること
		22	地元のモノ・コトが情報発信され、人が訪れ、交流が進んでいること
自治体経営の柱		めざすべき都市の状態	
市民力、行政力の向上のために	23	誰もが互いの違いを認め合い、個性と能力を発揮していること	
	24	市民が主役のまちづくりが行われていること	
	25	行政が、経営資源を効率的、効果的に配分し、成果重視の行政経営を行っていること	

また、「めざすべき都市の状態」の個々の達成度を測る個別指標を設定しており、総合計画2023の策定時に設定した2015（平成27）年度の現状値、最終年度となる2023（令和5）年度の目標値、2021（令和3）年度までの実績値については、次表のとおりです。

将来都市像を支えるまちづくりの柱	めざすべき都市の状態		現状値(2015)			
			番号	項目	単位	現状値(2015)
大切な命と暮らしを守るまち すずか	1	市民と行政が連携し、不測の事態に備えて対応していること	[1]	不測の事態に備えて、日常的に災害などに関する情報を得る手段を確保している市民の割合	%	64.2
	2	災害に対する不安がなく、安心して暮らしていること	[2-1]	災害に対する備えを自発的に行っている市民の割合	%	49.0
			[2-2]	災害への注意や関心を持ち、防災訓練や防災啓発事業に自発的に参加している市民の数	人	19,098 (2014)
	3	交通安全に対する意識が高く、交通事故がないこと	[3-1]	交通事故防止に意識的に取り組んでいる市民の割合	%	73.9
			[3-2]	市内における人口1千人当たりの年間人身事故発生件数	件/1千人	4.08 (2014)
	4	地域で見守り合い、事件や犯罪がなく治安が良いこと	[4-1]	地域で実施する各種の見守り活動に参加している市民の割合	%	12.3
			[4-2]	市内における人口1千人当たりの街頭犯罪などの認知件数	件/1千人	2.3 (2014)

将来都市像を支えるまちづくりの柱	めざすべき都市の状態		現状値(2015)			
			番号	項目	単位	現状値(2015)
子どもの豊かな未来を創りむまち すずか	5	みんなが支え合い、安心して子育てしていること	[5]	子育てについて相談ができる場所や機会を知っている市民の割合	%	43.9
	6	家庭、地域、学校が連携して、全ての子どもが楽しく学べる教育環境になっていること	[6-1]	「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒の割合	%	86.5 (2014)
			[6-2]	学校教育活動や地域の子育て活動に参加している市民の割合	%	14.4
	7	人と文化を育み、心豊かに過ごしていること	[7]	地域の芸能や祭りを含む芸術・文化活動、生涯学習活動に参加している市民の割合	%	32.6
	8	スポーツを観て、参加して、楽しんでいること	[8]	スポーツ（運動含む）をしたり、観戦やボランティアの形でスポーツに関わっている市民の割合	%	29.9

成果指標							単位施策
実績値 (2016)	実績値 (2017)	実績値 (2018)	実績値 (2019)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	目標値 (2023)	
61.6	62.7	71.8	72.9	72.5	68.1	95.0	0111 危機対策の充実 0121 災害・事件・事故などにおける情報提供力の向上
47.7	47.7	54.8	54.8	54.6	56.5	75.0	0211 市民の防災力・減災力の向上 0212 地域の防災力・減災力の向上 0213 行政の防災力・減災力の向上
21,000 (2015)	18,789 (2016)	21,528 (2017)	17,973 (2018)	17,776 (2019)	3,508 (2020)	23,000	0221 消防体制の強化 0222 火災予防の推進 0223 救急体制の強化
74.9	74.7	75.8	73.2	76.7	74.3	90.0	0311 交通安全に関する啓発・教育の推進
3.70 (2015)	3.40 (2016)	3.00 (2017)	2.90 (2018)	2.09 (2019)	1.44 (2020)	2.85	0312 交通安全施設の整備推進
12.8	11.8	13.3	12.1	11.3	9.4	20.0	0411 防犯に関する啓発の推進
2.0 (2015)	1.9 (2016)	1.4 (2017)	1.0 (2018)	0.9 (2019)	0.8 (2020)	1.5	0412 防犯設備の設置推進

《分析》

当該分野の成果指標（個別指標）の実績値について、7項目のうち、2021年度実績値が既に目標値を上回っている指標が2つ、それ以外が5つとなっています。人身事故発生件数[3-2]や犯罪認知件数[4-2]は目標値を大きく上回り、実施した施策の成果が表れた一方で、防災訓練や防災啓発事業に自発的に参加している市民の数[2-2]や各種の見守り活動に参加している市民の割合[4-1]については、総合防災訓練や街頭啓発事業などの実施により実績値が2015年度の現状値を上回り事業効果が表れた年度もありましたが、2020年度に入り、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するための行動制限や訓練の中止など、コロナ禍の影響により実績値が低下したものと考えられます。

成果指標							単位施策
実績値 (2016)	実績値 (2017)	実績値 (2018)	実績値 (2019)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	目標値 (2023)	
44.3	45.7	44.5	46.7	51.1	47.8	75.0	0511 子育て支援と産み育てやすい環境の構築 0512 ライフステージに応じた適切な支援の実施 0521 就学前児童の保育・教育環境の整備 0522 放課後児童の保育環境の整備
83.2 (2016)	82.3 (2017)	81.7 (2018)	81.2 (2019)	86.3 (2020)	80.5 (2021)	90.0	0611 グローバルな視点で主体的に学び、社会に発信する子どもの育成 0612 基礎・基本を身に付け、自ら表現する子どもの育成 0613 豊かな感性を持ち、自律した子どもの育成 0614 健康への意識を高め、健やかな体を持つ子どもの育成 0615 命を尊重し、人の多様性を認め合える子どもの育成
14.6	16.7	14.5	16.7	13.6	10.4	20.0	0621 学校とともに子どもを育む地域づくりの推進 0622 楽しく安心して学べる教育環境づくりの推進 0623 地域資源を生かした学習環境の充実
31.9	31.9	31.5	32.9	23.3	13.8	40.0	0711 市民参加による芸術・文化活動の推進 0712 学び、生かす生涯学習の推進 0713 図書サービスの充実 0721 文化財の調査と保存 0722 文化財の公開と活用
30.7	29.0	29.9	41.8	37.4	36.6	35.0	0811 市民参加型スポーツの推進 0812 快適に利用できるスポーツ施設の整備・運営

《分析》

当該分野の成果指標（個別指標）の実績値について、5項目のうち、2021年度実績値が既に目標値を上回っている指標が1つ、それ以外が4つとなっています。スポーツに関わっている市民の割合[8]については目標値を上回っており、子育てについて相談ができる場所や機会を知っている市民の割合[5]についても、広報等の周知活動により実績値が向上しています。学校教育活動や地域の子育て活動に参加している市民の割合[6-2]、芸術・文化活動、生涯学習活動に参加している市民の割合[7]については、2019年度までは順調に実績を伸ばしていましたが、2020年度以降に大きく低下していることから、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するための行動制限やイベントの中止など、コロナ禍の影響により現状値を下回っているものと考えられます。「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒の割合[6-1]は、コロナ禍の影響により学校活動が制限される中、普通教室への空調整備やトイレの洋式化、一人一台パソコンの設置などの学校環境整備に取り組んだ結果、継続的に8割以上の児童生徒が「学校に行くのは楽しい」と回答したことは一定の成果と考えられます。

※《分析》内 [] の数字は左側ページの番号欄の数字を表しています。

■：各年度の実績値が2015年度現状値を上回っているもの
太字：各年度の実績値が2023年度目標値を上回っているもの

将来都市像を支えるまちづくりの柱	めざすべき都市の状態					
			番号	項目	単位	現状値(2015)
みんなが輝き健康で笑顔があふれるまち すずか	9	地域で高齢者がいきいきと元気に暮らしていること	[9]	65歳以上の高齢者のうち、地域の活動に参加している市民の割合	%	53.3
	10	地域で障がい者が夢や生きがいを持って暮らしていること	[10-1]	障がい者支援のための活動など、障がい者と交流する機会を持ったことがある市民の割合	%	7.2
			[10-2]	障害者雇用率制度対象事業主のうち、障がい者を1人以上雇用している企業の割合	%	73.6(2014)
	11	誰もが安心して医療を受けていること	[11-1]	主治医やかかりつけの医療機関を持っている市民の割合	%	76.7
			[11-2]	人口10万人当たりの医療施設件数	件/10万人	121.3(2012.10.1)
	12	市民が心身ともに健康で自立して暮らしていること	[12-1]	健康維持増進のために意識的に体を動かしたり、規則正しい食生活を行っている市民の割合	%	65.0
			[12-2]	健康寿命(男性)	歳	78.54(2014)
	健康寿命(女性)	80.40(2014)				

将来都市像を支えるまちづくりの柱	めざすべき都市の状態					
			番号	項目	単位	現状値(2015)
自然と共生し快適な生活環境をつくるまち すずか	13	資源を有効に活用していること	[13-1]	ごみの減量化など資源の有効活用に意識的に取り組んでいる市民の割合	%	63.6
			[13-2]	市民1人1日当たりのごみ排出量	g/1人・1日	958(2014)
	14	地域の豊かな自然環境を維持し、保全していること	[14]	地域で行う海岸清掃活動などの美化活動や自然環境保全活動に参加したことがある市民の割合	%	15.8
	15	身近な生活環境の維持、向上を図っていること	[15]	人口10万人当たりの公害苦情件数(典型7公害以外を含む)	件/10万人	76.1(2012)
	16	地域内外への移動がしやすい交通環境になっていること	[16]	主に利用する日常の移動手段を使って目的地へ思い通りに移動できている市民の割合	%	89.1
	17	都市基盤がバランス良く整い、快適に暮らしていること	[17]	都市基盤が整備され、生活しやすいまちになっていると感じる市民の割合	%	66.5

成果指標							単位施策
実績値 (2016)	実績値 (2017)	実績値 (2018)	実績値 (2019)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	目標値 (2023)	
53.2	52.5	53.7	52.9	53.6	49.9	66.0	0911 高齢者福祉の推進 0912 地域包括ケアシステムの推進
8.5	8.6	7.1	11.3	8.3	8.0	15.0	1011 障がい者福祉の推進 1012 障がい者の社会参加の促進
76.2 (2016)	77.4 (2017)	79.2 (2018)	75.4 (2019)	69.9 (2020)	67.2 (2021)	85.0	
75.8	75.0	70.6	75.2	76.3	79.3	80.0	1111 医療体制の充実と適切な受診行動の普及啓発 1112 福祉医療費助成による適切な医療の提供 1113 国民健康保険などの安定的な運営
121.2 (2016.11.1)	118.5 (2017.11.1)	121.2 (2018.11.1)	116.5 (2019.11.1)	119.0 (2020.11.1)	121.3 (2021.11.1)	125.3	
66.1	64.5	59.4	65.7	67.3	65.5	70.0	1211 健康づくりの推進 1212 健康診査の推進 1221 地域福祉の推進 1222 生活保障の確保
78.73 (2015)	78.68 (2016)	78.50 (2017)	77.50 (2018)	78.99 (2019)	79.71 (2020)	79.60	
80.25 (2015)	80.87 (2016)	81.10 (2017)	79.80 (2018)	81.02 (2019)	81.40 (2020)	81.50	

《分析》

当該分野の成果指標（個別指標）の実績値について、8項目のうち、2021年度実績値が既に目標値を上回っている指標が1つ、それ以外が7つとなっています。コロナ禍で健康や医療に関する関心が高まったことから、主治医やかかりつけの医療機関を持っている市民の割合[11-1]や健康寿命[12-2]といった指標については、実績値が大きく向上しています。一方で、65歳以上の高齢者のうち地域の活動に参加している市民の割合[9]については、コロナ禍で外部との交流機会が減少したことから、2021年度実績値が2015年度現状値を下回ったものと考えられます。障がい者を1人以上雇用している企業の割合[10-2]については、様々な施策の実施により2019年度まで実績値は上昇傾向にありましたが、雇用環境が厳しくなったことや、法定雇用率の改正などが要因で、2020年度以降は、実績値が2015年度現状値を下回っています。

成果指標							単位施策
実績値 (2016)	実績値 (2017)	実績値 (2018)	実績値 (2019)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	目標値 (2023)	
61.6	59.1	58.6	70.7	71.3	70.9	75.0	1311 廃棄物の減量化推進と効率的な処理 1312 エネルギー資源の有効利用の促進
966 (2015)	946 (2016)	939 (2017)	939 (2018)	947 (2019)	935 (2020)	918	
16.1	15.3	14.4	22.2	20.4	15.6	25.0	1411 自然環境保全活動などの推進
94.6 (2014)	66.9 (2015)	64.1 (2016)	55.9 (2017)	55.0 (2018)	57.6 (2019)	62.0	1511 生活環境の保全と適切な公害対策
85.8	86.9	87.1	87.0	88.3	88.0	92.0	1611 幹線道路の整備推進 1612 国・県などの道路事業促進 1621 市道の維持管理 1622 生活道路の整備推進 1623 公共交通の利便性向上
62.9	63.2	65.6	62.5	65.4	65.7	75.0	1711 治水・浸水対策施設などの整備と維持管理 1712 公園・緑地の整備と維持管理 1713 居住の安定の推進 1714 上下水道事業の運営 1715 水道施設の整備・維持管理 1716 生活排水処理施設の整備・維持管理 1721 良好な住環境・景観の創造・保全 1722 都市構造の変化に対応した適正な土地利用の促進

《分析》

当該分野の成果指標（個別指標）の実績値について、6項目のうち、2021年度実績値が既に目標値を上回っている指標が1つ、それ以外が5つとなっています。公害苦情件数の実績値[15]は目標達成し、資源の有効活用に意識的に取り組んでいる市民の割合[13-1]やごみ排出量[13-2]については、廃棄物の減量化・資源化や食品ロスの啓発などの実施により実績値が現状値よりも向上しており、事業効果が表れています。美化活動や自然環境保全活動に参加したことがある市民の割合[14]については、各種メディアを活用した周知活動などにより、実績値を延ばした年度もありましたが、2021年度の実績値はコロナ禍の影響により2015年度現状値を下回っています。目的地へ思い通りに移動できている市民の割合[16]については、主に自転車や徒歩などで移動している10代（18・19歳）と80代以上の市民にとっての満足度が低いことが主な要因となっています。生活しやすいまちになっていると感じる市民の割合[17]については、都市基盤の整備への要望が多様化していることや、近年の気候変動による自然災害が全国的に発生していることなどが要因として考えられます。

※《分析》内〔 〕の数字は左側ページの番号欄の数字を表しています。

■：各年度の実績値が2015年度現状値を上回っているもの
太字：各年度の実績値が2023年度目標値を上回っているもの

将来都市像を支えるまちづくりの柱	めざすべき都市の状態		現状値(2015)			
			番号	項目	単位	現状値(2015)
活力ある産業が育ちにぎわいと交流が生まれるまちづくりがすずか	18	ものづくり産業が元気で、活気にあふれていること	[18]	製造品出荷額	億円	14,590 (2013)
	19	自然の恵みを活用した産業の地産地消が進み、活気にあふれていること	[19]	鈴鹿市産の食料品を普段から意識的に購入している市民の割合	%	67.1
	20	生活に関わる商いが元気で、まちがにぎわっていること	[20-1]	日常生活品を主に市内で購入している市民の割合	%	93.6
			[20-2]	小売吸引力指数	—	1.04 (2012.2.1)
	21	地域の中で雇用の場が確保され、いきいきと働いていること	[21]	就業地別有効求人倍率	倍	1.16 (2014)
	22	地元のモノ・コトが情報発信され、人が訪れ、交流が進んでいること	[22]	観光レクリエーション入込客数	万人	464 (2014)
自治体経営の柱	めざすべき都市の状態		現状値(2015)			
市民力、行政力の向上のために	23	誰もが互いの違いを認め合い、個性と能力を発揮していること	[23-1]	人権が尊重され、守られていると感じている市民の割合	%	46.0
			[23-2]	家庭、職場など様々な分野において男女が平等になっていると感じている市民の割合	%	36.2 (2013)
	24	市民が主役のまちづくりが行われていること	[24]	地域の課題解決に向けて、自ら取り組んだり、自発的に活動に参加している市民の割合	%	12.2
	25	行政が、経営資源を効率的、効果的に配分し、成果重視の行政経営を行っていること	[25-1]	市職員が丁寧な対応を心がけ、市民の立場を考え、業務に当たっていると感じている市民の割合	%	49.7
			[25-2]	「市職員の政策形成能力」があると感じる審議会などの委員の割合	%	55.9
			[25-3]	行政経営システムが効率的に運用されていると感じる市職員の割合	%	34.3

成果指標							単位施策
実績値 (2016)	実績値 (2017)	実績値 (2018)	実績値 (2019)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	目標値 (2023)	
12,834 (2014)	11,366 (2015)	13,605 (2016)	11,035 (2017)	12,798 (2018)	13,430 (2019)	15,650	1811 企業誘致の推進 1821 企業の高度化支援 1822 中小企業の経営基盤強化 1823 次世代自動車（燃料電池など）の普及・促進
64.5	64.9	60.8	63.0	63.0	61.3	75.0	1911 すずか産農林水産物の消費拡大の推進 1912 農林漁業関連施設の充実と担い手の育成 1913 農林漁業者への経営支援の促進 1914 多面的機能が発揮できる農山漁村の環境づくり 1915 農業生産基盤の整備促進 1916 地域農業と経営基盤づくり
90.7	91.2	93.1	91.8	92.3	92.1	95.0	2011 商業者の経営健全化促進
1.11 (2014.7.1)	-	1.06 (2016.6.1)	-	-	1.05 (2019.6.1)	1.07	
1.27 (2015)	1.39 (2016)	1.67 (2017)	1.65 (2018)	1.47 (2019)	0.96 (2020)	1.24	2111 雇用環境の整備と就業の場の確保 2112 勤労者福祉の増進
471 (2015)	471 (2016)	482 (2017)	506 (2018)	506 (2019)	293 (2020)	550	2211 地域資源の活用による稼ぐ力の醸成 2212 観光などによる集客・交流の促進 2213 モータースポーツの振興促進

《分析》

当該分野の成果指標（個別指標）の実績値について、6項目のうち、2021年度実績値が既に目標値を上回っている指標はありません。小売吸引力指数[20-2]については一度も実績値が2015年度現状値を下回ることなく推移しており、有効求人倍率[21]や観光レクリエーション入込客数[22]については、2019年度の実績値までは順調に伸びていましたが、その後、コロナ禍における雇用状況の悪化やイベントの中止などにより実績値が低下しています。製造品出荷額[18]については全国的な景気が影響していると考えられ、鈴鹿市産の食料品を普段から意識的に購入している市民の割合[19]については、鈴鹿市産の食料品の購入機会が拡大できていないことが原因と考えられます。

成果指標							単位施策
実績値 (2016)	実績値 (2017)	実績値 (2018)	実績値 (2019)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	目標値 (2023)	
44.4	48.3	47.2	46.7	47.2	47.2	70.0	2311 人権・平和に関する啓発 2312 人権啓発・福祉・交流の総合的な取組の推進 2321 男女共同参画の意識の向上
-	-	38.9	42.2	45.7	46.6	60.0	2322 あらゆる分野における男女共同参画の推進 2331 多文化共生の推進と国際理解の促進
13.7	12.8	13.6	13.4	12.6	20.3	50.0	2411 市民参加の推進 2412 市民活動の活性化 2413 広聴・市民相談の充実 2421 地域づくり支援の推進 2422 公民館事業の充実と適切な管理運営
50.4	51.3	51.5	53.4	53.4	55.8	80.0	2511 市民の視点に立って前向きにチャレンジする職員の育成 2512 実効性の高い組織体制の構築 2521 トータルマネジメントシステムの改善・推進と効率的・効果的な行政サービスの提供
48.9	56.6	60.4	52.1	53.9	52.1	80.0	2522 政策形成能力の向上と戦略的な施策の推進 2523 情報化推進による行政事務の効率化と市民との情報共有
42.6	50.5	45.4	45.7	48.7	50.1	80.0	2531 計画推進のための財源の確保 2532 計画的な財政運営と財務情報の開示 2541 法令などに基づく適正な事務の推進 2542 監査・検査・審査機能の充実 2543 適正な資産管理 2544 働きやすい職場環境の充実

《分析》

当該分野の成果指標（個別指標）の実績値について、6項目のうち、2021年度実績値が既に目標値を上回っている指標はありませんが、5つの項目については各種啓発や推進事業などの実施により、実績値が向上しています。「市職員の政策形成能力」があると感じる審議会などの委員の割合[25-2]については、「法務能力が身に付いていると感じるか」という設問では例年70～80%の実績値をキープしていますが、「企画力・計画力・先見性が身に付いていると感じるか」という設問では30～40%に留まっています。

※《分析》内 [] の数字は左側ページの番号欄の数字を表しています。

■ : 各年度の実績値が2015年度現状値を上回っているもの

太字 : 各年度の実績値が2023年度目標値を上回っているもの

- : 統計調査等が実施されなかったため実績値の計測ができなかった年度

4 指標の実績値結果から分かること及びこれからの課題

(1) 全体指標の分析

全体指標「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民」の割合について、6年間の実績値をみると、84.9%から88.0%の間で増減を繰り返し、経年による向上や低下の傾向はあまりありません。

また、男女・年代・地域による実績値の違いについては、男女間の差はあまりなく、年代別では年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、18・19歳・20代では、3か年80%を割り込む状況になっています。地域別の2021(令和3)年度実績値では、西部地域と中央地域が89%台になり目標値に近い数値となっており、海沿いの地区を多く含む東部地域がもっとも低い状況になっています。しかし、経年比較をすると、すべての地域で現状値の87.5%前後で増減しており、それほど大きな差はありません。

男女別、地域別での大きな差はなかったものの、年代別の若年層にあたる18・19歳・20代が低いことが特徴的な結果となっています。この要因については、進学や就職・転職を機に、鈴鹿市から転出することを考えている市民が他の年代と比較して多いものと考えられます。

(2) 個別指標の分析

個別指標の測定結果をみると、38の測定項目のうち、2021(令和3)年度実績値が既に2023(令和5)年度目標値を達成している項目は5項目、2021(令和3)年度実績値が2023(令和5)年度目標値は達成していないものの、2015(平成27)年度現状値を上回っている項目が16項目、2021(令和3)年度実績値が2015(平成27)年度現状値を下回っている項目が17項目となっており、2023(令和5)年度目標値達成の見込みが厳しい項目が多いという結果となりました。

2021(令和3)年度実績値が2015(平成27)年度現状値を下回っている項目の中には、新型コロナウイルス感染症が流行し、市民の活動や行政の実施する事業等が制限され、影響を受けたと考えられる項目が多数あるほか、社会情勢の変化に伴う景気悪化の影響を受けている項目もあります。

一方、新型コロナウイルス感染症による健康に関する関心が高まったことから、実績値の向上が見られた項目もありました。

総合計画2023策定時には想定されていなかった新型コロナウイルス感染症の

拡大や景気の悪化などに対応するため、様々な施策を行ってきましたが、結果的に社会情勢による影響を受けて、成果指標の実績値が大きく増減する結果となりました。

(3) 課題整理

全体指標の分析から見える課題としては、18・19歳・20代が進学、就職のタイミングで市外へ転出したとしても、いずれ鈴鹿市に戻り、そして住み続けたいと思える魅力のあるまちづくりを進めることが、全体指標向上のための課題の一つと言えます。

また、個別指標の分析から、社会情勢の変化による影響を受けて実績値が増減する傾向が見られましたが、計画策定時に想定できなかった事態にも迅速に対応できるように、年少人口や生産年齢人口の大幅な減少と後期高齢者人口の急増に対応する施策、SDGs(持続可能な開発目標)に向けた施策、デジタル技術を活用して利便性を損なわないサービスの提供を行う施策、公民連携により民間活力を導入する施策といった課題解決に向けた新たな要素を取り入れることが必要であると言えます。

分析結果から見える課題とは別に指標測定における課題としては、市民アンケート調査により実績値の把握を行っている指標のうち、「どちらとも言えない」、「分からない」といった回答項目を設けている指標について、一定数が選択する傾向が見られることから、分析する際に考慮することや、目標数値の設定についても慎重に検討する必要があります。

(4) 次期鈴鹿市総合計画の策定に向けて

2022(令和4)年6月8日から2022(令和4)年7月8日にかけて実施した次期鈴鹿市総合計画策定のための市政アンケート調査の集計結果では、重要度が高いものの満足度が低い施策は、「危機管理体制の充実」、「交通事故対策の推進」、「防犯環境づくりの推進」、「誰もが安心して働ける労働環境づくり」、「第一次産業の活性化」、「地域に根ざした高齢者福祉の推進」、「医療体制・制度の充実」、「整備優先度の高い道路の整備」、「移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上」でした。

このうち、総合計画2023の個別指標で、2021(令和3)年度実績値が2015(平成27)年度現状値を上回っているものは、不測の事態に備えて、日常的に災害などに関する情報を得る手段を確保している市民の割合[1]、交通事故防止に意識的に取り組んでいる市民の割合[3-1]、市内における人口1千人当たりの年間

人身事故発生件数[3-2], 市内における人口 1 千人当たりの街頭犯罪などの認知件数[4-2], 主治医やかかりつけの医療機関を持っている市民の割合[11-1]が該当し, 2021(令和 3)年度実績値が 2015(平成 27)年度現状値を下回っているものは, 地域で実施する各種の見守り活動に参加している市民の割合[4-1], 人口 10 万人当たりの医療施設件数[11-2], 主に利用する日常の移動手段を使って目的地へ思い通りに移動できている市民の割合[16], 鈴鹿市産の食料品を普段から意識的に購入している市民の割合[19], 就業地別有効求人倍率[21]が該当します。

現状値を下回っているものについては, 市民にとって重要度が高いものの満足度が低く, 総合計画2023の取組の効果が表れていない施策であるため, 今後の計画を検討していく上で, 課題解決に向けて取組内容の工夫・改善を行うことが, 重要であると考えられます。



鈴鹿市 政策経営部 総合政策課
〒513-8701
三重県鈴鹿市神戸一丁目18番18号
電話 <059>382-1100(代表)
<059>382-9038(直通)
内線 3214, 3215
URL <http://www.city.suzuka.lg.jp>